



視点

乳幼児期の包括的性教育コンテンツ

「毎日難儀なことばかり～♪」で始まるNHK朝ドラ「ばけげん」の主題歌をつくったのは、私が新任のころ担任した佐藤良成くんです。良成くんがパートナーと結成したハンバートハンバートは、2022年からNHK Eテレで放映されている「アイラブミー」の主題歌を担当し、「じぶんのからだはどんななの～♪」という歌い出しの声で、40年ぶりに良成くんの声を懐かしく聞きました。

「アイラブミー」は、幼児期の子どもたちに向けた包括的性教育番組をつくることができないかと考えたプロデューサーの藤江千紘さんはじめ、子育て真っ最中のスタッフのみなさんが制作しており、私は企画のころから番組作りに関わらせて頂いています。製作当初はコロナ禍でしたが、第1話「なんでパンツをはいているんだろう？」のアニメーションチェックなどに、当時勤務していた職場まで何度も足を運んでくださいました。この回では、ミーがパンツを脱ごうとする場面があり、映像としてどこまで見せるかなど検討しました。ジェンダーにとらわれずに描きたいという制作側のねらいで、主人公ミーの性別は限定していません。いろいろな子どもたちが自分と重ね合わせてお話の世界に入り込めることが大切だと思っています。

今年1月に初回放映された「なんでじぶんであらわないといけないの？」では、自分のからだを自分で洗う、特に耳の後ろや足の指の間など洗いにくいところも洗うことができるようになろう、ということがテーマとなっています。排泄、入浴は乳幼児期から、日々自分のからだに触れ、からだのことを知る大切な機会です。子どもがお風呂に立って入ることができるようになったら、いっしょに入っているおとなはスポンジに石けんを泡立て、胸と性器とお尻を指して、「ここは自分で洗ってね」とスポンジを手渡すことが大切、と安達倭雅子さんが『子どもと親と性と生』（東京シュレー出版 2007年）に書いていらっしゃる。もちろん最初の頃は的外れなところを洗うでしょうからおとなが洗ってあげなければならないのですが、これは、親

といえども勝手に触らないところだというメッセージになるのです。この回の絵コンテ校正の時にはそのようなことも話し、どろんこ遊びをして帰ってきたみに「今日は自分でからだを全部洗ってみよう」とパパが促し「パパが洗ってよ」と言うみに、パパの「みーはこれまでも性器やお尻は自分で洗ってきたじゃないか」というセリフを入れてもらいました。性器という表現は、第1話「なんでパンツを～」の回でも入れてほしいと提案しましたが、このときにはこの表現は慎重に使用したいとのことで、この回で初めて登場しました。視聴者のみなさんが、みーはもうすでに性器とお尻は自分で洗っているんだ、ということに気がついてくれることを願っています。

2018年に立ち上げた乳幼児の性と性教育サークルは、今年9年目を迎えます。学習指導要領に縛られることのない保育現場ですが、乳幼児期の包括的性教育が必要だと取り組みを始めているところは、まだ一部の地域に限られるのが現状です。それでも、乳幼児サークル運営委員が世話人などを務める全国保育団体合同研究集会（保育合研）の性教育分科会への参加者は年々増え、各地で少しずつ実践が広がっていると感じています。保育現場、教育現場で包括的性教育を進めるとき、何をテーマにするのか、絵本や動画などをどのように使っていくのかなどこれからも実践交流をしたいと思っています。2024年、日本ユニセフ協会とこども家庭庁が共催で始めた「こどものけんりプロジェクト」に「アイラブミー」制作チームが加わり、「先生のためのツールボックス（下記QRコード参照）」を作成しました。こちらも有効活用して頂ければ幸いです。



(C) 當麻結菜



北山ひと美

(乳幼児の性と性教育サークル代表)